

# 第 29 回日本神経麻酔集中治療学会 開催報告書

## 1. 開催概要

学会名：第 29 回日本神経麻酔集中治療学会

会 長：河野 崇（高知大学医学部 麻酔科学・集中治療医学講座 教授）

会 期：2025 年 7 月 4 日（金）～5 日（土）

会 場：高知市文化プラザ かるぽーと

参加者数：約 180 名

主 催：高知大学医学部 麻酔科学・集中治療医学講座

事務局長：勝又 祥文（同講座 講師）

本学会は、「神経麻酔の進歩と Brain Health」をテーマに掲げ、神経麻酔ならびに集中治療領域における最新の知見と技術、そして脳健康（Brain Health）を守るための臨床的工夫について、全国からの参加者とともに議論する場となりました。地方開催でありながら、多くのご参加をいただき、盛会のうちに終わることができましたことを、心より感謝申し上げます。

## 2. 委員会・理事会・評議員会の開催

初日の 7 月 4 日（金）には、教育委員会、総務委員会、倫理委員会、理事会、評議員会が順次開催されました。今後の学会運営や教育体制、倫理的課題に関して活発な意見交換がなされ、参加された先生方から貴重なご助言をいただきました。

## 3. 教育講演

本学会では 3 題の教育講演が行われ、いずれも参加者の関心を集め、大変好評を博しました。

### 教育講演 1（7 月 5 日）

演題：「痙縮治療の新たな地平：選択的後根切断術の可能性と挑戦」

演者：金城 健 先生（沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 小児整形外科 部長）

座長：河野 崇 先生（高知大学）

小児の痙縮治療において外科的介入の選択肢としての選択的後根切断術（SDR）の有効性と適応、術中モニタリングにおける麻酔科の役割について、実践的かつ臨床に即した講演をいただきました。

## 教育講演 2（7月5日）

**演題：**「脳脊髄液減少症診断の新たな展望」

**演者：**中居 永一 先生（高知大学）

**座長：**矢田部 智昭 先生（公立西知多総合病院）

難治性頭痛の鑑別診断として注目される脳脊髄液減少症について、MRI 所見や新しい診断技術を含む最新の知見をご紹介します。

## 教育講演 3（7月5日）

**演題：**「神経ステロイドと麻酔」

**演者：**立岩 浩規 先生（高知大学）

**座長：**山下 幸一 先生（高知医療センター）

神経ステロイドの神経保護作用や麻酔薬との関連について、基礎医学的視点からわかりやすく解説いただきました。

## 4. シンポジウム

【術後せん妄の新時代：日本版プラクティカルガイド 2024 の概要と実践】（7月5日）

**座長：**川口 昌彦 先生（奈良県立医科大学）

**オープニングリマークス：**川股 知之 先生（和歌山県立医科大学）

「ガイドライン作成の背景と意義」について、策定過程と今後の方向性を丁寧にご紹介いただきました。

### 演者・演題：

- 立花 俊祐 先生（札幌医科大学）  
「術後せん妄の定義、症状、評価、フレイルとの関連性」
- 黒崎 弘倫 先生（和歌山県立医科大学）  
「術後せん妄のリスク因子、リスク評価、術前管理」
- 恵川 淳二 先生（奈良県立医科大学）  
「術後せん妄の予防策と術中管理」
- 勝又 祥文 先生（高知大学）  
「術後せん妄への対応と術後管理」

本シンポジウムでは、ガイドラインの解釈と応用、ならびに多職種での実践に向けた提言がなされ、参加者からの質問も非常に多く、関心の高さがうかがえました。

## 5. セミナー

### ランチョンセミナー（7月5日）

**演題：**「HPITMによる術中低血圧対策の新たなアプローチ」

**演者：**阿部 尚紀 先生（愛媛大学）

**座長：**讃岐 美智義 先生（呉医療センター）

HPIを用いた個別化血圧管理の重要性が述べられました。

### イブニングセミナー1（7月4日）

**演題：**「高齢者麻酔における脳保護戦略：SedLine®はアウトカムを変えるか？」

**演者：**河野 崇（高知大学）

**座長：**長坂 安子 先生（東京女子医科大学）

高齢者における術中脳波モニタリングの意義について、自験例を交えて解説しました。

### イブニングセミナー2（7月4日）

**演題：**「AsisTIVAの有用性と問題点」

**演者：**川西 良典 先生（徳島大学）

**座長：**荻野 祐一 先生（香川大学）

TIVA自動制御技術の利点と課題について、現場での実装例とともにご紹介いただきました。

## 6. 優秀演題・一般演題

### 優秀演題（臨床）

**座長：**吉谷 健司 先生（国立循環器病研究センター）

**コメンテーター：**長坂 安子 先生

### 優秀演題（基礎）

**座長：**紙谷 義孝 先生（岐阜大学）

**コメンテーター：**垣花 学 先生（琉球大学）

**一般演題1～4：**全国各地の医療機関より多数の演題をご発表いただき、症例報告から基礎研究まで幅広い議論がなされました。

## 7. 総括と御礼

第29回日本神経麻酔集中治療学会は、2025年7月4日・5日の2日間にわたり、高知市文化プラザ「かるぽーと」にて開催され、無事に盛会のうちに幕を閉じることができました。

本学会には全国から約180名の先生方にご参加いただきました。遠方より足をお運びいただいた先生方、また現地開催にご理解とご協力をいただいた皆様に、心より深く御礼申し上げます。

本学会のテーマ「神経麻酔の進歩と Brain Health」には、周術期管理において脳の健康をいかに守るか、そしてその責務を担う私たち神経麻酔・集中治療の専門家が、どのように知と技を深化させていくかという思いを込めました。このテーマに沿って、教育講演・シンポジウム・セミナー・一般演題を通じて、臨床と基礎、技術と理念、現場のリアリティと将来のビジョンとが交差する、濃密な議論の場となりました。

教育講演では、痙縮治療における選択的後根切断術（SDR）の麻酔的意義、脳脊髄液減少症の診断最前線、そして神経ステロイドの基礎から臨床への展開といった、多面的な知見をご講演いただきました。いずれも、明日からの医療に直結する深い学びを提供してくださいましたことに、改めて感謝申し上げます。

また、今回のシンポジウム「術後せん妄の新時代」では、日本版プラクティカルガイド2024をもとに、定義から予防、対応に至るまで、第一線でご活躍の先生方による実践的な講演と熱量ある討論が行われました。高齢者を中心とした術後脳機能障害への関心の高まりと、チーム医療による介入の重要性を再認識する機会となりました。

さらに、HPIやTIVA自動制御、脳波モニタリングといった先進的技術を紹介するセミナーでは、医学と工学の融合がもたらす新たな可能性を垣間見ることができ、参加者からの質問も相次ぎ、関心の高さがうかがえました。

優秀演題や一般演題においては、若手医師や大学院生による熱意ある発表が数多くあり、次代の神経麻酔・集中治療医学を担う人材の成長を感じることができました。発表後の質疑では、参加者全体が学び合う雰囲気にも包まれ、学会本来の意義を実感する瞬間でもありました。

今回、地方都市・高知での開催ということで、ご不便をおかけする点もあったかと存じますが、その分、現地での「顔の見える交流」が随所で生まれ、学

術だけでなく人と人とのつながりを感じられる、温かくも力強い学会になったと感じております。

本学会の開催にあたり、ご多忙のなか快くご講演・座長をお引き受けくださった先生方、理事・評議員の皆様、シンポジウム・教育講演・セミナーの企画運営にご尽力くださった諸先生方、事務局として学会を支えてくださった勝又祥文講師はじめ教室スタッフの皆様、そして共催企業の皆様のご支援とご尽力に、あらためて心より深謝申し上げます。

また、若手会員やこれから神経領域に携わる方々にとって、本学会が「学ぶ喜び」と「医療の原点」に触れる場となったことを、学会長として何より嬉しく思います。

私たち高知大学麻酔科学・集中治療医学講座としても、今後もこの学問領域の研鑽に努めるとともに、地域から全国、そして世界へと発信する活動を継続してまいります。

結びに、本学会で得た知見と交流が、皆様の日々の診療や研究、教育の力となることを願いつつ、ご参加いただいたすべての方々に心より感謝申し上げます。そして、神経麻酔・集中治療領域のさらなる発展をともに目指してまいりましょう。

2025 年 7 月

第 29 回日本神経麻酔集中治療学会

会長 河野 崇

(高知大学医学部 麻酔科学・集中治療医学講座 教授)









